



鈴鹿のレガシー

～写真でみる80年～

その3

1942(昭和17)年12月1日に誕生し、今年で市制施行80周年を迎える鈴鹿市。80周年にちなみ、このコーナーでは本市の発展を振り返ります。

白子(国道23号)周辺

近鉄白子駅があり、本市の市街地の一つである白子地区。駅の西側の国道23号沿いでは、昭和32年末から宅地造成事業が始まり、現在では、住宅やマンション、商業店舗が立ち並んでいます。

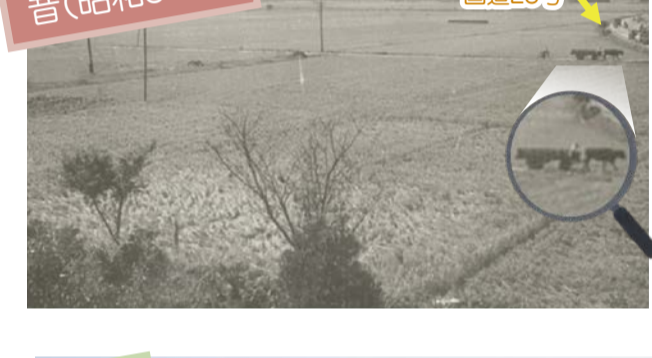
昔の写真は、いずれも宅地造成が始まる以前の白子周辺の様子です。田畑が広がっており、左下の写真では牛車も確認することができます。今とは違う姿に、市の発展ぶりを感じることができます。



出典:米極東空軍撮影の空中写真(昭和27年撮影)



出典:三重県における空中写真(市町共同)撮影成果(令和2年度)



※鈴鹿市子育て応援館から撮影

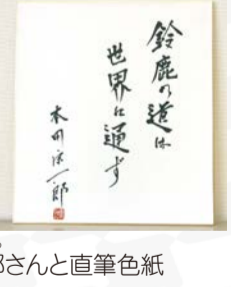


私たちのまち鈴鹿は「世界のSUZUKA」

過去4度ものF1チャンピオンを獲得したS・ベッテルは、鈴鹿サーキットの印象を「神が造ったコース」と表現しました。ホンダ創業者の本田宗一郎さんの「田んぼをつぶすな」との命のもと、平坦地を避けて丘陵地を縫うように作られたコースは起伏に富み、さまざまなコーナーが組み合わされたテクニカルなレイアウトとなり、多くのドライバー・ライダーを魅了してきました。鈴鹿に住んでいると気付きにくいですが、このような世界に誇るサーキットを市街地に有し、世界の国際都市と名を連ねるF1開催都市“SUZUKA”に、より誇りを持ちたいものです。

そして今年、F1日本グランプリが私たちのまち・鈴鹿に帰ってきます。F1開催を前に、国内外のモータースポーツシーンで活躍する著名人を招いたフォーラム、EXPOが開催されます。手軽にモータースポーツに触れることができる鈴鹿市民ならではの特権を生かし、参加されてはいかがでしょうか。

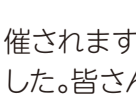
※フォーラム、EXPOの詳細は5ページをご覧ください。



▲本田宗一郎さんと直筆色紙

■畑川 治(鈴鹿モータースポーツ友の会 理事長)

キーボード



私は生まれが鈴鹿市で、幼少のころから、鈴鹿サーキットからレース音が聞こえることが当たり前の環境で育ちました。学生となり地元を離れたときには、生活の中でその音が聞こえないことに違和感を覚え、心にぽっかりと穴が空いたような気持ちになったものです。コロナ禍でF1が開催されなかった2年間、まさにその時と同じような気持ちでした。

間もなく、3年ぶりにF1日本グランプリが開催されます。今回の特集の取材で各団体の方に話を伺いました。皆さんは、国内外からたくさんの方が鈴鹿を訪れるF1が、いかに大切かを痛感し、一様に感じていたのは、鈴鹿にとってF1が「なくてはならないもの」ということでした。

市民の方も楽しみにされている方が多いことでしょう。3年ぶりのF1を鈴鹿全体で盛り上げ、みんなで楽しみたいものです。(由)